

ブドウ‘シャインマスカット’の品質向上技術の支援

農業技術センター普及指導部

実施期間:平成30年～令和3年

課題・目的

- 管内でもシャインマスカットの栽培が拡大しているが、過度の大房化による糖度の低下、黒とう病・生理障害が発生し、品質向上対策が必要となっている。
- 直売において有利販売するため、適正な房重管理、黒とう病・生理障害対策技術を支援し、品質向上を図る。

活動内容

■<平成30年～令和元年>生産者を巡回し、調査した結果、市場出荷向け房重(500g)と比較して直売では有利販売のために大房になる傾向が分かった。モデル生産者2戸で、花穂整形や摘粒による適正な房重管理を検討したところ、房重600～700gで糖度の低下を抑えられることを確認し、栽培マニュアルを作成した。



(適正な房重の外観)

■<令和元年～令和2年>展示ほを設置し、黒とう病対策として耕種的防除(病斑部の除去)と薬剤防除を組み合わせた防除方法を検討した。その結果、防除効果が確認できたことから、生産者に周知するとともに、栽培マニュアルに組込んだ。

■<令和2年～令和3年>栽培マニュアルを使用した講習会(18回)を実施した。令和3年度は生理障害(かすり症、未熟粒)が多発したが、栽培マニュアルによる管理を実践した園では、発生を抑えることができた。

具体的な成果

■シャインマスカットを導入した生産者(100戸)のうち、約7割(68戸)が栽培マニュアルによる管理を実践した。

■栽培マニュアルによる管理により、房重を目標出荷規格である600～700gに揃えることで、糖度の高い良食味の房づくりと、品種特有の生理障害(かすり症、未熟粒)等の発生を抑えることができ、品質が向上した。